

千種の森に包まれた大鳥造りの社殿

大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

おおとりたいしゃ
大鳥大社



手前に見えるのが、拝殿。奥に、本殿がある。



内拝殿の詳細



本殿を外部から見た写真

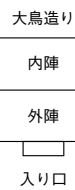


本殿の内部

所在地： 堺市西区鳳北町 1-1-2
最寄駅： JR 阪和線「鳳駅」下車 徒歩 10 分
TEL： 072-262-0040

建築概要：

〔大鳥造り〕神社建築様式の一つ。出雲大社本殿に見られる大社造りの進歩したもので「切造り」や「つま入り」の点は大社造りと同じだが、入り口が中央に付いて内陣と外陣の区別がはっきりしていて、独特でありこの様式を「大鳥造り」という。



大鳥大社は、大鳥造の本殿がある古代神社建築の一つである。旧官幣大社、延喜式内 和泉国 一之宮の大鳥大社は御祭神を日本武尊と大鳥連祖神の二柱とし、同じく式内社の大鳥北浜（鍛鞆）神社・大鳥美波比神社・大鳥井瀬神社・大鳥羽衣浜神社と併せて大鳥五社明神と呼ばれている。社伝によると日本武尊が東夷征討の帰途、伊勢で亡くなった。その屍は白鳥となって飛び去り、大和国琴引原から河内国古市市を經由して、この地に留まったので社を建立したといわれている。日本武尊の白鳥伝説は、浅草の鷲神社や目黒の大鳥神社、そして大阪羽曳野市などにもあり、日本武尊に何等かの関連のある所には広く伝わっている。このような各地に存在する日本武尊にまつわる白鳥伝説だが、堺市の大鳥大社は大鳥（鷲・大鷲）神社の総本社としての格を持ち千葉県柏市の大鳥神社を始めとして全国各地の神社に分祠されている。大鳥大社は、白鳥伝説が世に広まった天武天皇から元明天皇の頃に創建されたのではないかと云われている。斉衡2年（855）8月18日に記された「大鳥五社大明神并神鳳寺縁起帳」という資料に慶雲三丙午（706）「始めて三妃を祭り神宮造営、大鳥五社大明神と名付け奉る」とあり、記録として残るこの頃以前から存在していた事になる。神鳳寺というのは、大鳥山勸學院神鳳寺と言い、和銅元年（708）に行基が大鳥大社の神宮寺として創建された。行基大僧正は堺の出身で一生を民間布教と橋をかけたり灌漑事業を手がけた名僧で、生涯に建てた寺は堺の家原寺を始め49寺院もあり、その中でも神鳳寺は家原寺とならび、本堂・不動堂・五重塔・経蔵・鐘撞堂などを備えた大寺院だったようである。境内約1万5千坪には種々の樹木があり千種の森（ちぐさのもり）と呼ばれている。10万本の菖蒲園も有名である。（七堂元敏）